

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544-2		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和7年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・西光荘は、県内で唯一の天然温泉を入浴サービス提供している施設です。 ・四季を楽しみながら天然温泉に浸かることで、体調の改善にも繋がり、安心して生活を送っていただけます。 ・開業してから看取りまではいいのですが、重度化した利用者様を訪問診療の先生と相談しながら、可能な限り介護サービスを提供しています。 ・専任の看護師により利用者様の体調管理をすることで、安心して過ごせるようにしています。 ・百歳を越えた利用者様、そのご家族様、町と「百歳を祝う会」を開催。 ・コロナが続く中でも分散し、行事を楽しんでいただけているようにしている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、酪農の放牧地や森林などに囲まれた恵まれた自然環境の中にある。敷地内には同法人が運営する温泉施設と小規模多機能ホームが併設され、大型浴槽の利用やイベント等を共同で開催したり相互に看護師の業務支援をしたりと連携を図りながら充実した介護サービスを提供している。法人の基本理念を実現するため、介護理念や職員信条を定めて日々の業務に当たっており、職員同士が何でも言い合える職場環境を構築している。利用者の重度化への取り組みでは、看取りまでは行っていないものの、かかりつけ医や専従看護師の支援を得て可能な限り住み慣れた場所での介護サービスを提供しており、終末期に向かう各段階で家族に対しての身体的状況等の説明にかかりつけ医や看護師がしっかりとかわり家族や職員に安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎朝の申し送り後に基本理念、介護理念、介護目標の唱和をし、職員で共有し実践に繋げている。 ・月に1度行う合同ミーティングでは、職員信条を唱和し目標に取り組んでいる。	基本理念及び介護理念、職員信条は玄関口など目の届く場所に掲示し、家族等にも周知している。毎日の申し送りや合同ミーティングの際、管理者からの説明と唱和を行い、職員が共通認識を持って、基本理念とケアプランを意識した介護を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナの感染状況が落ち着いてきたことで夏祭り、敬老会では運営推進委員の方々とボランティアの方々に歌や踊りを披露していただき交流ができた。 ・地域の小学生たちもボランティアスクールで来荘されました。	立地場所の特性から日常的な近所付き合いは難しいものの、自治会に加入して行事に参加したり、住民の方からお裾分けをいただいている。一般ボランティアや地元の小学生とのボランティア交流は継続して行われおり、避難訓練への地域消防団の参加や協力は、今後大いに期待できる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員が駒子の湯へ出向き、「筋力アップ講座」で血圧測定や健康に老いることの大切さを知ってもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に1度開催し、地域・行政・家族代表の各委員より助言や意見をいただいている。	町の担当者や各地区の民生委員、消防団長、利用者・家族代表が委員となり、多方面から意見や助言いただいている。夜間の災害に備えたヘッドライト整備の提言を得るなど、運営やサービスの向上に繋がっている。職員不足の問題については、関係機関等に相談するなどして解消を図りたいとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域包括ケア会議、個別ケア会議に出席し、情報共有と協力を得ている。 ・町の担当者と連絡を取り、助言指導をいただいている。また事業所からも常に相談・報告を行っている。	公設民営の事業所であり、町との連携は十分に確保されている。災害時の緊急情報を始めとする各種行政情報は文書やメールで受けているほか、町から適時に電話等もいただき、いつでも報告・相談を行える体制にある。		

令和 6 年度

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・合同ミーティング時に身体拘束について定期的に討論会と内部研修を実施している。状況に応じて話し合い日頃の介護に取り組んでいる。 ・身体拘束をしないことへの理解はできているが、利用者の安全を考えると不安がある。	合同ミーティング後に適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、身体拘束の確認と職員への意識啓発を行っている。何でも言い合える職場環境の中、スピーチロックについては「その場・その時」に話し合いを持っている。利用者の確認や転倒防止のためセンサーを活用し、玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・合同ミーティング時に、虐待防止についての研修を行い、話し合いの場を設けている。 ・入浴時、排泄時等に身体観察している。変化があった際には、看護師、ケアマネージャー、他の職員に報告し、話し合い注意を払っている。場合によっては社長に報告し、内部研修に繋げるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・年に1回、合同ミーティング時に内部研修を実施している。 ・各種資格取得時にも勉強している。 ・成年後見制度を利用した利用者が1名いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約・解約時に利用者、ご家族にご理解をいただけるよう、その都度丁寧に説明することを心掛けている。 ・利用者、ご家族の話を聴き、少しでも思いに近づける様に努めている。 ・改定の際も速やかに報告し、理解・協力をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族懇談会はまだ行っていないが、面会時や自宅に帰る時等にお話を伺っている。 ・施設やご家族から電話連絡の際に意見をいただいた場合には、反映するようにしている。 ・生活状況を定期的にご家族に報告している。	家族が面会や通院の付き添いで来所された際に、意見、要望を伺っている。また、毎月発行の機関誌や担当職員のお便りで利用者の生活状況等をお知らせしながら意向等を伺っている。運営に関する意見等は出されていないが、引き続き情報の提供に努めながら家族の意見等を得て、事業所運営やサービスの改善に反映させるよう取り組みたいとしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・必要に応じて、社長と面談を行っている。 ・職員から意見・要望があれば、合同ミーティング等で話をするようにしている。	職員の意見や提案は、申し送り時などに随時行われ、合同ミーティング等で検討している。職員同士で何でも言い合える関係性が出来ており風通しの良い職場環境にある。加えて、年1回社長との面談も実施している。職員の意見により、刻み食の調理器具の変更や研修参加の勤務変更等の提案等にも柔軟対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・最低賃金上昇に伴い、給与資金の足並みを揃えようとしている。まだ一部適正な配置に戻していない点もある。 ・職員の勤務状況の把握が少々不十分な面がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修を計画・実施。 ・外部研修の機会があれば、参加するようにしている。 ・オンライン研修を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者は地域包括ケア会議、ケアマネジャーは個別ケア会議に出席して、他事業者との情報共有・情報交流を図っている。また相談の機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用希望の本人・ご家族に対して、実態調査や担当者会議にて話を聴き、困っていること、要望等に耳を傾けて、不安を軽くするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設見学、体験をしていただき、西光荘の雰囲気や職員を見て、知っていただくことを勧めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・環境の変化に伴う事故防止に努め、本人ができること、できないことを確認して、必要に応じた支援をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人のできることを発見するようにしている。 ・洗濯物たたみ、食器拭き、新聞たたみ等を自分の役割・日課にしている。 ・他の利用者の簡単な見守りやお世話をする様子も見られ、支え合う関係を築いてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の活動・生活状況を月に1回ご家族にお知らせしている。 ・変化があった時には、随時連絡・報告している。 ・通院は基本的にご家族にお願いして対応していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・町民文化祭に作品を出展し、見学に行くようにしている。	遠くから家族が面会に来た際には、自宅と一緒に帰り家族と過ごすことを勧め、自宅宿泊を含め家族とのつながりを大切にする支援を行なっている。利用者の昔の生活歴を念頭に声掛けし、得意なものを見つけられるように取り組んでいる。毎年、町民文化祭に作品を出品し見学することを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係性を見ながら、席替えを行ったり。声がけをして落ち着く雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・包括ケア会議で転所先のケアマネージャーに様子を伺ったり、情報提供をしたりしている。 ・ご家族から相談を受けた場合は、対応している。		

令和 6 年度

事業所名：介護予防施設 西光荘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人に声がけ会話を行い、食べ物や塗り絵等本人の希望や思いに添えられるよう努めている。困難な時には、説明して別の方法を一緒に考えたりしている。 ・歩行・立位訓練をしている利用者には、応援・声がけをしてやる気を出せるようにしている。	殆どの利用者は言葉での意思疎通ができるが、困難な方については、仕草や表情、筆記などで意向の把握に努めている。入浴時や食事時などリラックスしている時にやりたいことや思いを汲み取り、職員間で情報を共有し利用者に寄り添いながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・通所を利用していた方が入所されることが多いので、本人の人柄や病状を把握し易い。また通所と同じ場所なので馴染みやすいと考えています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の健康状態や生活状況を申し送りや、ミーティングで話し合い、支援記録や申し送りノートで情報共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・朝の申し送りや合同ミーティングで利用者動向から課題と対応について話し合い、ケアの見直しをしている。 ・利用者とのコミュニケーションにより、思いを受け止められるよう努めている。	居室担当者と計画作成担当者等でモニタリングを行い、かかりつけ医等の指示・助言を得ながら、原則、半年毎に利用者の現状に即した計画としている。合同ミーティングの際は、計画担当者も参加して生活状況についてカンファレンスを行い見直し等について話し合っている。家族には毎月、居室担当者が生活状況を整理しお知らせする際に意見等を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・業務間のふとした瞬間や昼食後に関わりや気づきを共有。記録し職員間で確認している。 ・利用者のちょっとした変化・異変は職員間で共有。看護師に相談し、協力医(金ヶ崎診療所)に相談して、早めの受診に役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族から外出の話があれば、外出するなど、いつでも柔軟な対応をしている。 ・施設が対応して逆デイサービスの提案もしている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・定期的に介護相談員の訪問がある。 ・理容師の散髪や「まなびい」を利用した読書は利用者の癒しや楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・大体の利用者は金ヶ崎診療所に主治医になってもらい、月に1回の訪問診療を受け、健康状態を把握していただき、必要な薬を処方してもらい、その後の状態を報告しています。必要に応じて専門医の受診、訪問歯科の受診をしていただいている。	国保診療所の医師をかかりつけ医とし月1回の訪問診療を受診している。整形外科、皮膚科などの専門科には家族同行を基本にし、同行できない場合は職員が付き添っている。歯科は訪問歯科を受診している。家族が同行する際は、生活状況の記録を持参し受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者の全身状態の変化、異変に気付いた場合は看護師に状態報告し、必要な場合には看護師の判断で受診できるような体制になっている。 ・月1回の訪問診療時には必ず立会い、状態の報告をして医師より指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・利用者が入院した場合、入院先の担当医と連絡を取り、経過の把握に努めている。退院時のカンファレンスに出席、もしくはFAXにて退院後の支援計画の情報収集をして、生活援助に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に認知症の症状の重度化に伴い、身体症状が悪化した場合は必要に応じて次のステップへ移行していただくことを説明している。また悪化した時も改めて説明をしている。ただしADL全介助であっても、経口摂取ができ、他の身体症状がない場合は継続入居としている。主治医にも相談・指示を受けている。	入居時に重度化した場合の対応について家族に説明し、了承を得ている。看取りまでは行っていないが、かかりつけ医の協力や専従看護師の支援を得て可能な限り終末期の介護サービスを提供している。重度化して終末期に向かう段階で、かかりつけ医や看護師から身体状況等について家族に説明してもらっており心強く思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・合同ミーティング等、内部研修、オンライン研修を利用し急変時の対応について学習する機会を設けている。対応にあたった職員・看護師が処置実践について必要事項を伝えている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災委員会が中心となり年2回訓練を実施しているが、コロナ禍によりまだ消防は電話対応のみで地域消防団の協力は得ていない。地域住民（役員）の協力をお願いしている。 ・自家発電機と蓄電器を合同ミーティング時に使用し、いつでも対応できるように準備している。	避難訓練は年2回実施し、コロナ禍のためまだ地域の消防団との協力関係はできていないが、地域住民（役員）へ訓練への協力をお願いしている。備蓄は、食材、飲料水等3日分以上と十分に在庫があるほか、自家発電機、蓄電器も整備している。運営推進会議で出されたヘッドライトについても検討している。	災害は地域の中では、お互い様の心で助けたり助けられたりする関係であることから、避難訓練の際には近隣住民へお知らせし、理解と協力を得て実施することを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員信条にある「言葉遣いは柔らかく丁寧にする」を心掛けて対応している。 ・親しい関係について、指示的な言葉遣いになってしまう場面もあります。	職員信条にある「言葉遣いは柔らかく丁寧にする」を心がけ、元教師や元看護師など利用者の前歴を活かして手伝いをいただくなど、自尊心を大切にしよう配慮している。機関誌等への写真掲載は家族から同意を得ており、入浴や排泄などの異性介助に問題は起きていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・排泄介助はもちろんのこと、思いやりのある優しい声かけを意識して対応している。 ・利用者の表情を見ながら会話対応している。時には必要に迫られ、声高に声がけしてしまうこともあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・併設の小規模多機能型との合同レクリエーションへの参加・不参加や日々の作業等の希望を聴きながら、個々の体調を見ながら各々のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・表情を伺いながら決めたり、自己決定できる方は本人の希望で着るようにしている。 ・不足している衣類は家族に連絡して用意していただいたり、職員で対応している。 ・衣替えは定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者に応じた、硬さ・大きさ・量で自力摂取できるよう支援している。上手く口に運べない方には声かけ説明し手伝うようにしている。 ・季節の山菜や手作りおやつを提供している。 ・食後、食器拭きを手伝っていただいている。	副食は委託業者からの食材（湯煎用）を活用しており、献立は業者が作成している。おやつは職員の手作りで提供するほか、敬老会やクリスマス会、誕生会などの行事では郷土料理などの他、ノンアルコール飲料やお刺身等も提供し喜ばれている。野菜等は農家からのお裾お分けや家族からの差し入れを活用している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士作成のメニュー(外部)に沿って調理。 ・利用者各々の状態に合わせて、食事量・硬さ・大きさ・トロミをつけている。 ・水分量は200ccを1日5回提供している。 ・主治医から意見・指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケア時に口腔観察し、自分で口腔ケアができる方でも必要に応じて仕上げ介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレで排泄できることを基本に、排泄パターンを把握し、各々に合わせトイレ誘導している。 ・失敗しても排泄があったことを喜んだり、体調を気にしあえるようにしている。 ・排泄用品は個々に合った物を用意し、変化が見られた時は随時職員で話し合い対応している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間とタイミングを見て声をかけている。失敗したときはそっとさりげなく介護している。全員がリハビリパンツを使用している。夜間等のポータブルトイレの利用はない。家族の同意を得てセンサーを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食物繊維接種を基本に、乳製品や腸内細菌を増やす飲み物、水分補給を促している。 ・腹筋を刺激する歩行に目的を持たせて援助している。 ・便秘薬に関しては、主治医に相談・指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・天然温泉を提供。 ・見守りだけで入浴できる利用者は少なく、血圧や身体状態によりシャワー浴、かけ湯、短時間入浴になっているが、入浴が楽しみの一つになっている。	隣接する小規模多機能ホームの大型浴槽も利用して週2、3回温泉入浴を楽しんでいる。入浴時にはリラックスすることもある。お喋りしながら温泉を楽しんでいる方もいる。季節ごとに菖蒲湯、リンゴ湯、ゆず湯等も提供し楽しみの一つにしていきたい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・使い慣れた馴染みの物を自宅より持参していただいている。 ・室温、照明に気を配っている。 ・利用者の状態に応じて、入眠するまで側にいたり、声がけをして安心して眠れるよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・看護師が管理し、利用者・職員に薬の効果や副作用等を説明し、必要性を理解し服薬していただいている。 ・薬には日付と名前を記して、職員間でも声をかけあい、間違えないように気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・テレビ・DVD等を活用し、目や耳から入る刺激を大切にしている。 ・併設している小規模多機能型と合同の季節行事に参加。 ・洗濯物たたみ、食器拭き等、自分の役割だと手伝ってくれる利用者もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・通院以外、外出できていないが、天気の良い日は小規模多機能型と合同でドライブに出かけたり、西光荘の周りを散歩したりもしています。 ・ご家族の希望で外出する利用者もいる。	晴れた日には日向ぼっこやホーム周辺を散歩したり、プランターの花植えを手伝ったりして、それぞれ外に出る機会を作っている。また近隣の農業大学校や胆沢ダムへ花見や紅葉見学にも出かけている。2、3人の利用者が、毎月、自宅訪問（逆デイサービス）、外泊をして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望されれば応じられるが、コロナ感染が心配で現時点ではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙が送られてきたり、電話がくれば対応している。 ・手紙の返事を書く際も、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を感じられるような飾り付けをしたり、職員が撮った季節折々の風景写真を飾って、季節を感じてもらっている。	天井の窓からは日光が差し込み、床暖房とエアコンで温度管理され、白い壁と木彫の柱に囲まれ落ち着く空間となっている。食事用テーブルやテレビ、3畳の小上がりもあるなか、利用者は思い思いの場所でく寛いでいる。壁には、利用者の作品やクリスマスなど季節行事の飾りつけを皆で綺麗に飾って楽しんでいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者間の関係性に配慮して、席替え・テーブルの位置替えをしている。 ・車椅子の利用者が多くなってきた為、少し難しくなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個室になっているので、本人が希望することは基本的に自由にしてもらっている。 ・馴染みの物、趣味の物、写真等を飾っている。	居室にはベッドやエアコン、加湿器、ナースコールなどのほかサイドテーブルや椅子、ソファが常備されている。自宅で使い慣れたり馴染みにしていたラジオや写真、ぬいぐるみなどを持ち込み、好きな場所に置いたり飾ったりして、自身が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・施設内はバリアフリー・手すり設置。車椅子等福祉用具を使用するのに十分な広さがある。 ・トイレや居室がわかるようにネームプレートを貼っている。居室が分かりにくい方には顔写真が貼ってある。 ・小柄な方が多いので、トイレの便座に低い便器を設置した。		